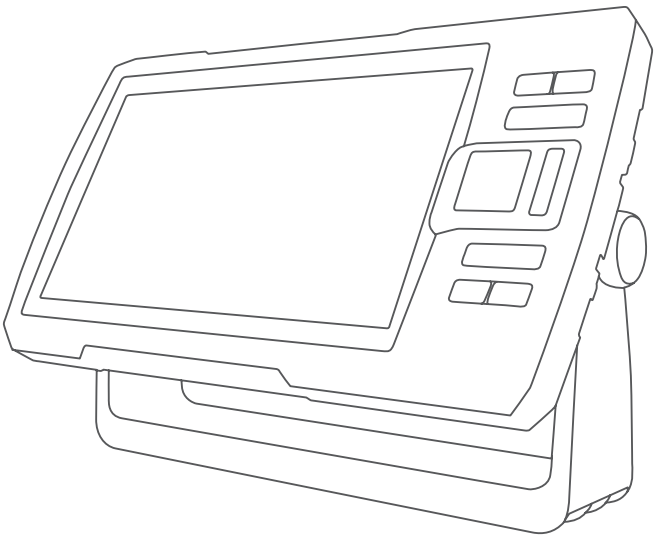
GARMIN®



STRIKER™ VIVID

操作マニュアル

© 2020 Garmin Ltd. or its subsidiaries

無断転載禁ず。著作権法により、Garmin 社の書面による承認なしに、本マニュアルの全体または一部をコピーすることはできません。Garmin 社は、ユーザーや組織に通知する責任を負うことなく本マニュアルの内容を変更または改善したり、内容を変更する権利を有します。本製品の使用に関する最新情報および補足情報については、www.garmin.com を参照してください。

Garmin®、Garmin ロゴ、および Ultrascroll®は、米国またはその他の国における Garmin Ltd.の登録商標です。ActiveCaptain®、Garmin ClearVü™、Garmin Quickdraw™、および STRIKER™は、Garmin Ltd.とその子会社の商標です。これらの商標を、Garmin 社の明示的な許可なしに使用することはできません。

Wi-Fi®は Wi-Fi Alliance Corporation の登録商標です。

BLUETOOTH®ワードマークとロゴは Bluetooth SIG, Inc.の所有であり、Garmin 社はライセンスに基づきこのマークを使用しています。

目次

はじめに 1
- デバイスキー 1
- メイン画面 2
- STRIKER Vivid 4 でのズーム 2
- STRIKER Vivid 4 でパンする 2
- GPS 衛星信号の捕捉 2

海図プロッタをカスタマイズする 3
- ホーム画面をカスタマイズする 3
- 組み合わせページ 3
  - STRIKER Vivid 5/7/9 で新しい組み合わせページを作成する 3
  - STRIKER Vivid 4 で新しい組み合わせページを作成する 4
  - 組み合わせページをカスタマイズする 4
- バックライトを調整する 4
- 表示モードを調整する 4
- ビープ音を設定する 4

ActiveCaptain®アプリ 5
- ActiveCaptain の役割 5
- ActiveCaptain アプリの操作手順 5
- スマート通知を有効にする 6
- ActiveCaptain アプリでのソフトウェアの更新 6

ソナー魚群探知機 6
- 通常魚探ソナー表示 7
- Garmin ClearVü ソナー表示 7
- SideVü ソナー表示 9
- 分割画面の周波数 10
- フラッシャー 10
  - フラッシャーページの追加 10
- 分割ズーム表示 11
- 変換器のタイプを選択する 11
- ソナー周波数 12
  - 変換器の周波数の選択 12
- デバイスキーを使用してソナー画面でウェイポイントを作成する 12
- ソナーを一時停止する 12
- ズームを調整する 13
  - 画面を水底にロックする 13
- ソーナーゲイン 13
  - 感度を自動に設定する 13
  - ゲインを手動で設定する 13
- 深度スケールの範囲を調整する 14
- ソーナー設定 14
  - 深度線を表示および調整する 14
  - スクロール速度を設定する 14
  - 底探査制限の設定 14
  - ソナー表示設定 15
  - ソナーノイズ拒否設定 16
  - オーバーレイの数の設定 17

Garmin QuickdrawContours マッピング 17
- Garmin Quickdraw 等深線機能を使用して水域の地図を作成する 17
- Garmin Quickdraw 等深線地図にラベルを追加する 18
- Garmin Quickdraw 等深線の削除 18
- Garmin Quickdraw コミュニティ 18
  - ActiveCaptain で Garmin Quickdraw コミュニティとつながる 18
- 地図設定 19
- Garmin Quickdraw 等深線の設定 19
  - 深度範囲の濃淡 20

STRIKER Vivid でナビゲーション 20
- 名前で目的地を検索する 20
- 地図上でウェイポイントを作成する 21
- ウェイポイントにナビゲーションする 21
- 地図を使用してルートを作成したりナビゲーションする 21
- ナビゲーションを停止する 21
- ウェイポイント 21
  - 現在の位置をウェイポイントとしてマークする 21
  - さまざまな位置にウェイポイントを作成する 21
  - 落水位置にマーキングおよびナビゲーションする 21
  - 地図上で距離を測定する 22
  - すべてのウェイポイントのリストを表示する 22
  - 保存したウェイポイントを編集する 22
  - ウェイポイントまたは MOB を削除する 22
  - すべてのウェイポイントを削除する 22

ルート 22
地図を使用してルートを作成したりナビゲーションする 22
ルート作成と保存 23
ルートのリストを表示する 23
保存したルートを編集する 23
保存したルートを参照してナビゲーションする 23
保存したルートを参照してルートに並行してナビゲーションする 24
保存したルートを削除する 24
保存したすべてのルートを削除する 24
トラック 24
トラックを表示する 24
アクティブトラックを消去する 24
アクティブトラックを保存する 25
保存したトラックのリストを表示する 25
保存したトラックを編集する 25
トラックをルートとして保存する 25
記録したトラックを参照してナビゲーションする 25
保存したトラックを削除する 25
保存したすべてのトラックを削除する 25
アクティブトラックを再トレースする 26
アクティブトラックの色を設定する 26
記録中にトラックのログメモリを管理する 26
トラックログの記録間隔を設定する 26

デバイス設定 26
システム設定 26
システム情報 27
マイベッセルの設定 27
キールオフセットを設定する 28
水温オフセットの設定 29
アラートの設定 29
ナビゲーションアラート 29
システムアラート 29
ソナーアラーム 29
単位設定 30
ナビゲーション設定 30
工場出荷時設定の復元 30

ユーザーデータの共有と管理を行う 30
Garmin デバイスに接続してユーザーデータを共有する 31
ユーザーデータ共有ケーブルの配線図 31
保存されたデータの消去 32

付録 32
シリアル番号を使用したデバイスの登録 32
仕様 32
トラブルシューティング 33
デバイスの電源がオンにならない、または繰り返しオフになる 33
デバイスで GPS 信号を受信できない 33
ソーナーが動作しない 33
デバイスで正しい位置のウェイポイントが作成されない 34
デバイスに正しい時刻が表示されない 34

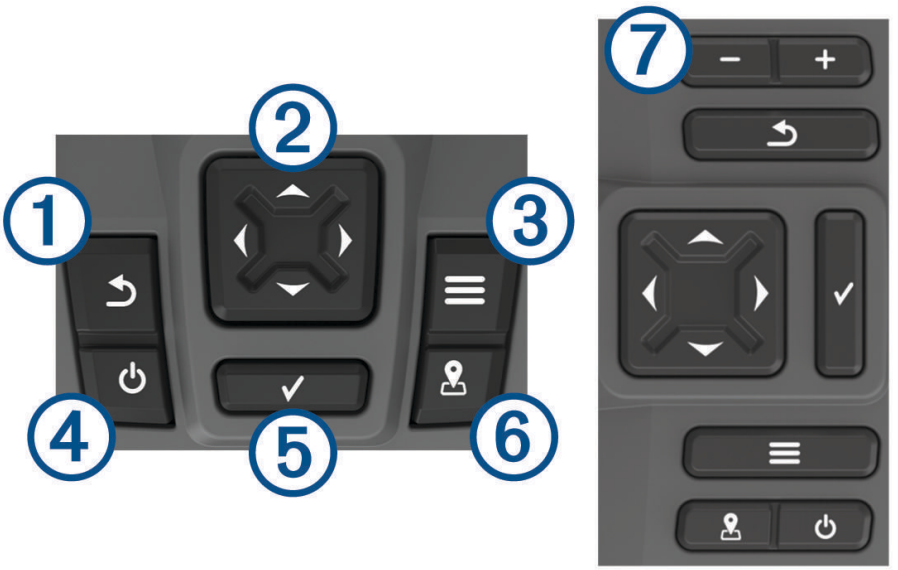
索引 35

はじめに

⚠ 警告

製品に関する警告およびその他の重要な情報については、製品パッケージに同梱されている『安全性および製品に関する重要な情報』ガイドを参照してください。

デバイスキー



アイテム	アイコン	説明
①		前の画面に戻ります。 長押しすると、ホーム画面に戻ります。
②		スクロール、オプションの強調表示、およびカーソルの移動を行います。 表示をズームインまたはズームアウトします
③		該当する場合は、メニューを閉じます。 該当する場合は、ページのオプションメニューを開きます。
④		長押しすると、デバイスの電源オン / オフが切り替わります。 軽く押すと、以下の操作を 1 つ以上実行します： • バックライトの調整 • カラーモードの調整 • ソナーの有効化と無効化
⑤		メッセージを確認して、オプションを選択します。
⑥		現在位置をウェイポイントとして保存します。
⑦		表示をズームアウトします (すべてのモデルで利用できるわけではありません)。 表示をズームインします (すべてのモデルで利用できるわけではありません)。

注記

デバイスの電源をオンにする前に、デバイスの該当する穴にコネクタをしっかり押し込む必要があります。ケーブルがデバイスに十分押し込まれていないと、電源が切れたり、動作が停止する可能性があります。

メイン画面

魚群探知機のメイン画面では、魚群探知機のすべての機能にアクセスできます。 これらの機能は、魚群探知機に接続されているアクセサリによって異なります。 このマニュアルで説明する一部のオプションおよび機能を利用できない場合があります。

別の画面を表示しているときは、を長押ししてホーム画面に戻ることができます。 画面のレイアウトをカスタマイズできます。

STRIKER Vivid 4 でのズーム

地図をズームインまたはズームアウトできます。

- を選択してズームインします。
- を選択してズームアウトします。

STRIKER Vivid 4 でパンする

ソナー表示および地図を移動して、現在の場所以外の領域を表示できます。

1 または を選択して、パンを開始します。

2 パンするには、矢印キーを使用します。

ヒント： パンを停止するには、を選択します。

GPS 衛星信号の捕捉

魚群探知機の電源をオンにしたとき、GPS レシーバーは衛星データを収集して現在地を確定する必要があります。魚群探知機が衛星信号を取得しているときは、がホーム画面の上部に表示されます。魚群探知機が衛星信号を失った場合、が表示されなくなり、点滅する疑問符が画面上の の上に表示されます。

GPS の詳細については、www.garmin.com/aboutGPS を参照してください。

海図プロッタをカスタマイズする

ホーム画面をカスタマイズする

ホーム画面では、項目を追加したり並べ替えたりできます。

1 ホーム画面から、**ホームのカスタマイズ**を選択します。
2 次の中からオプションを選択します。
   - 項目を並べ替えるには、**再配置する**を選択し、移動する項目を選択して新しい場所を選択します。
   - 項目をホーム画面に追加するには、**追加**を選択して新しい項目を選択します。
   - ホーム画面に追加した項目を削除するには、**削除**を選択して項目を選択します。
   - ホーム画面の背景画像を変更するには、**背景**を選択して画像を選びます。

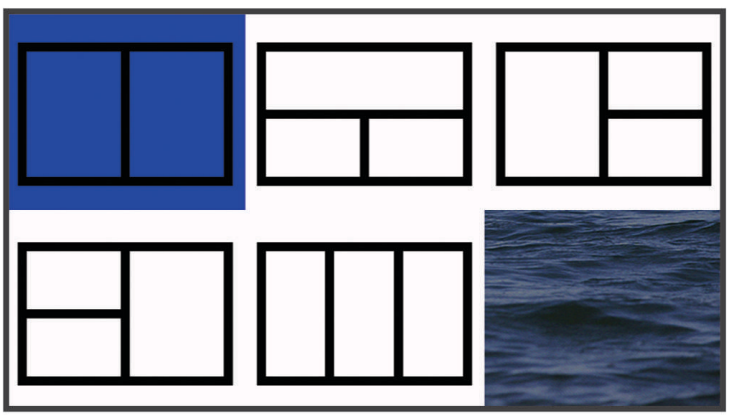
組み合わせページ

一部のページでは、複数の機能が 1 ページに組み合わされています。 組み合わせページで利用できるオプションの数は、STRIKER Vivid デバイスに接続されているオプションデバイスによって異なります。 組み合わせページを編集して、新しい組み合わせページを作成できます。

STRIKER Vivid 5/7/9 で新しい組み合わせページを作成する

必要に応じてカスタム画面を作成できます。

1 **ホームのカスタマイズ** > **追加** > **組み合わせを追加する**の順に選択します。
2 レイアウトを選択します。



3 エリアを選択します。
4 画面を選択します。
5 ページの各エリアで、上記の手順を繰り返します。
6 必要に応じて、**データ (非表示)** を選択し、オプションを選択します。
   - 画面に表示されるデータをカスタマイズするには、**複表示データ**を選択します。
   - コンパステープデータバーをオン / オフするには、**コンパステープ**を選択します。
7 カスタマイズが完了したら、**完了**を選択します。
8 **次へ**を選択します。
9 ページ名を入力します。
   ヒント：✔を選択して文字を選択します。
10 矢印キーを使用して、ウィンドウのサイズを変更します。
11 矢印キーを使用して、メイン画面で場所を選択します。
12 **完了**を選択して終了します。

STRIKER Vivid 4 で新しい組み合わせページを作成する

必要に応じてカスタムページを作成できます。

1 **ホームのカスタマイズ** > **追加** > **組み合わせを追加する**の順に選択します。
2 最初の機能を選択します。
3 2 番目の機能を選択します。
4 分割画面の方向を選択するには、**分割**を選択します (オプション)。
5 **次へ**を選択します。
6 ページ名を入力します。
ヒント： ✔を選択して、文字を選択します。
7 矢印キーを使用して、ウィンドウのサイズを変更します。
8 矢印キーを使用して、メイン画面で場所を選択します。
9 **完了**を選択して終了します。

組み合わせページをカスタマイズする

1 組み合わせページを開きます。
2 ☰ > **構成**の順に選択します。
3 次の中からオプションを選択します。
- 名前を変更するには、**名前**を選択し、新しい名前を入力します。
- 画面の情報の配置を変更するには、**レイアウト変更**を選択し、新しいレイアウトを選択します。
- 画面に表示される情報を変更するには、**変更機能**を選択し、新しい情報を選択します。
- 画面に表示される情報エリアのサイズを変更するには、**マルチ画面 のサイズを変更する**を選択します。
- 画面に表示されるデータをカスタマイズするには、**複表示データ**を選択します (オーバーレイの数の設定, 17 ページ)。

バックライトを調整する

1 **設定** > **システム** > **ディスプレイ** > **バックライト**を選択します。
2 バックライトを調整します。
ヒント： どの画面表示でも、⏻ を繰り返し押すと、輝度レベルがスクロールされます。 この機能は、画面が見えないほど輝度が低い場合に役立ちます。

表示モードを調整する

1 **設定** > **システム** > **ディスプレイ** > **デザイン**の順に選択します。
ヒント： 任意の画面で⏻ > **デザイン**を選択して、色の設定にアクセスすることもできます。
2 オプションを選択します。

ビープ音を設定する

デバイスで音が鳴るタイミングを設定できます。

1 **設定** > **システム** > **発信音**の順に選択します。
2 次の中からオプションを選択します。
- アイテムを選択したときやアラームがトリガーされたときにデバイスでビープ音が鳴るようにするには、**(選択と警報) について**を選択します。
- アラームがトリガーされたときだけデバイスでビープ音が鳴るようにするには、**警報のみ**を選択します。

ActiveCaptain®アプリ

⚠ 警告

この機能により、ユーザーは情報を送信できます。Garmin®は、ユーザーによって送信された情報の正確性、完全性、または適時性についていかなる表明も行いません。ユーザーによって送信された情報を使用したり信用したりすることは、お客様ご自身の責任になります。

ActiveCaptain アプリは、STRIKER Vivid デバイスと関連する船舶経験のコミュニティに接続します。

このアプリを使用すると、ウェイポイントやルートなどのユーザーデータを簡単かつ迅速に転送したり、Garmin Quickdraw™ Contours コミュニティに接続してデバイスソフトウェアを更新したり、旅行の計画を立てたりすることができます。

ActiveCaptain の役割

ActiveCaptain アプリを使用して STRIKER Vivid デバイスを操作できるレベルは、役割によって異なります。

機能	オーナー	ゲスト
アカウントへのデバイスの登録	はい	いいえ
ソフトウェアの更新	はい	はい
ダウンロードまたは作成した Garmin Quickdraw 等高線を自動的に転送します	はい	いいえ
スマート通知のプッシュ送信	はい	はい
ウェイポイントやルートなどのユーザーデータを自動的に転送します	はい	いいえ
特定のウェイポイントへのナビゲーションまたは特定のルートのナビゲーションを開始し、そのウェイポイントまたはルートを STRIKER Vivid デバイスに送信します。	はい	はい

ActiveCaptain アプリの操作手順

注： ActiveCaptain 機能は、Wi-Fi®テクノロジーを搭載した STRIKER Vivid 7 および STRIKER Vivid 9 モデルでのみ使用できます。

ActiveCaptain アプリを使用して、モバイルデバイスを STRIKER Vivid デバイスに接続できます。このアプリでは、チャートプロッターを操作して、データの共有、登録、デバイスソフトウェアの更新、モバイルデバイス通知の受信など、作業をすばやく簡単に完了できます。

1. STRIKER Vivid デバイスから、**ActiveCaptain** を選択します。
2. **ActiveCaptain** ページから、**Wi-Fi ネットワーク** > **Wi-Fi** > **オン**の順に選択します。
3. このネットワークの名前とパスワードを入力します。
4. モバイルデバイスのアプリケーションストアから、ActiveCaptain アプリをインストールして開きます。
5. モバイルデバイスを、STRIKER Vivid デバイスの 24 m (80 ft.) 以内の範囲に持ち込みます。
6. モバイルデバイスの設定から、Wi-Fi の接続ページを開き、Garmin デバイスに入力した名前とパスワードを使用して Garmin デバイスに接続します。

スマート通知を有効にする

⚠ 警告

操船中は通知を読んだり返信しないでください。水上の状況に注意を払わないと、船舶の破損、身体傷害、または死亡事故を招くおそれがあります。

STRIKER Vivid デバイスで通知を受信するには、デバイスをモバイルデバイスおよび ActiveCaptain アプリに接続する必要があります。

1 STRIKER Vivid デバイスから、**ActiveCaptain** > **スマート通知** > **通知を有効にする**の順に選択します。
2 モバイルデバイスの設定で、Bluetooth®テクノロジーをオンにします。
3 デバイスを互いの距離が 24 m (80 ft.) 以内になる範囲に持ち込みます。
4 モバイルデバイスの ActiveCaptain アプリから、**スマート通知** > **チャートプロッターとのペアリング**の順に選択します。
5 画面の指示に従って、アプリを STRIKER Vivid デバイスにペアリングします。
6 プロンプトが表示されたら、モバイルデバイスにキーを入力します。
7 必要に応じて、モバイルデバイスの設定でどの通知を受信するかを調整します。

ActiveCaptain アプリでのソフトウェアの更新

デバイスに Wi-Fi テクノロジーが搭載されている場合、ActiveCaptain アプリを使用して、デバイスの最新ソフトウェア更新をダウンロードし、インストールすることができます。

注記

ソフトウェアの更新では、大きなファイルをダウンロードするアプリが必要になることがあります。 通常のデータ制限や料金がインターネットサービスプロバイダから適用されます。 データ制限や料金の詳細については、インターネットサービスプロバイダにお問い合わせください。

インストール処理には数分かかる場合があります。

1 モバイルデバイスを STRIKER Vivid デバイスに接続します (ActiveCaptain アプリの操作手順, 5 ページ)。
2 ソフトウェア更新が利用可能で、モバイルデバイスでインターネットにアクセスできる場合は、**ソフトウェアアップデートの** > **ダウンロード**を選択します。

   ActiveCaptain アプリはモバイルデバイスに更新をダウンロードします。 アプリを STRIKER Vivid デバイスに再接続すると、更新がデバイスに転送されます。 転送が完了すると、更新のインストールを求めるメッセージが表示されます。
3 STRIKER Vivid デバイスでプロンプトが表示されたら、更新をインストールするオプションを選択します。
   - すぐにソフトウェアを更新するには、**OK** を選択します。
   - 更新を遅らせるには、**キャンセル**を選択します。 更新をインストールする準備ができたら、**ActiveCaptain** > **ソフトウェアアップデートの** > **今すぐ更新**を選択します。

ソナー魚群探知機

チャートプロッターを互換性のある振動子に接続できる場合は、チャートプロッターを魚群探知機として使用できます。

ニーズに合った最適な振動子の詳細については、garmin.com/transducers にアクセスしてください。

さまざまなソナー表示により、エリア内の魚群を表示できます。使用できるソナー表示は、チャートプロッターに接続されている振動子と発振回路のタイプによって異なります。たとえば、特定の Garmin ClearVü™ソナー画面は、互換性のある Garmin ClearVü 変換器を接続している場合にのみ表示できます。

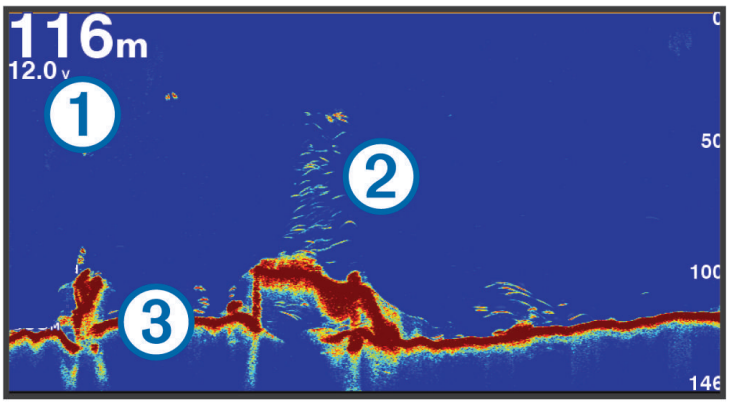
使用できるソナー表示の基本的なタイプには、全画面表示、2 つ以上の画面を組み合わせた分割画面表示、分割ズーム表示、2 つの異なる周波数を表示する分割周波数表示の 4 つがあります。画面で各表示の設定をカスタマイズすることができます。たとえば、分割周波数表示を表示している場合、各周波数の感度を個別に調整できます。

ソナー表示の準備がニーズに合っていない場合でも、カスタムの組み合わせ画面を作成できます (組み合わせページ, 3 ページ)。

通常魚探ソナー表示

接続している変換器に応じて、いくつかの全画面表示が使用できます。

通常魚探全画面ソナー表示には、変換器からのソナー計測が大きな画像で表示されます。 画面の右側にある目盛りは、画面を右から左にスクロールするときに、検出されたオブジェクトの深度を示します。

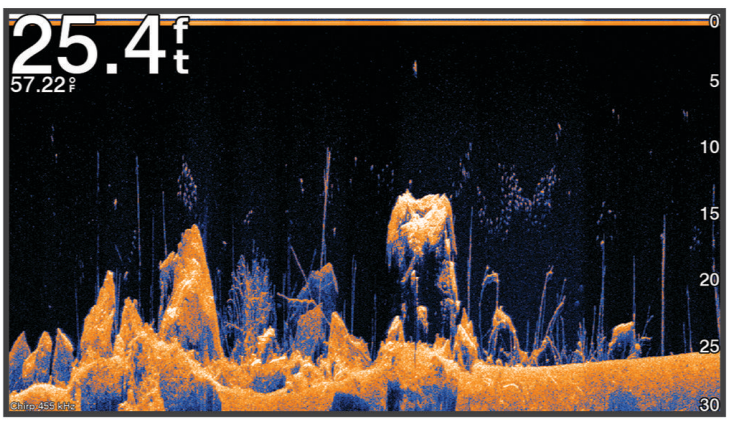


①	深度情報
②	浮遊ターゲットまたは魚群
③	水底

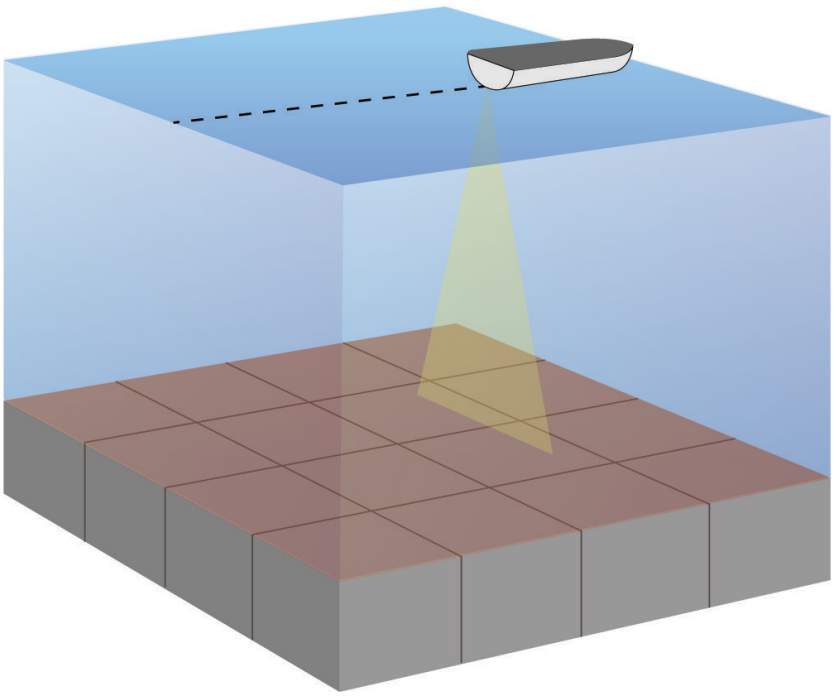
Garmin ClearVü ソナー表示

注： Garmin ClearVü スキャンソナーを受信するには、互換性のある変換器が必要です。互換性のある振動子の詳細については、garmin.com/transducers を参照してください。

Garmin ClearVü 高周波ソナーはボート周辺の釣り環境の詳細画像を提供し、航行中のボートの下にある物体を詳細に表示します。



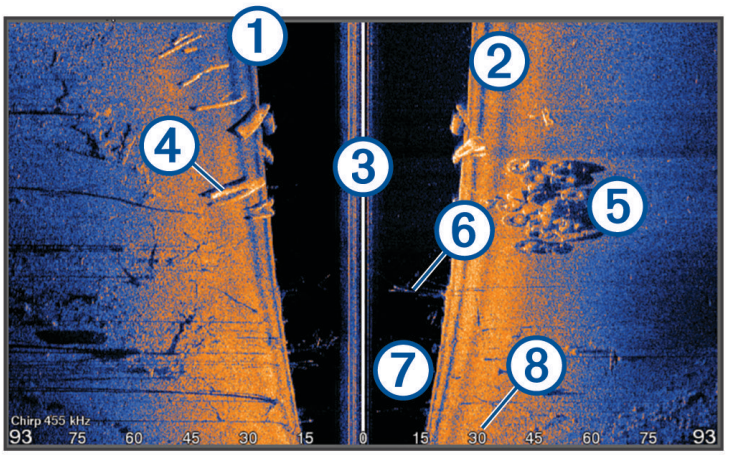
従来の変換器は円錐ビームを放射します。Garmin ClearVü スキャンソナーテクノロジーは、コピー機のビームの形状に類似したビームを放射します。このビームは、船舶の下にある物体のより明瞭な写真のような画像を提供します。



SideVü ソナー表示

注： SideVü スキャンソナーを受信するには、互換性のある SideVü 変換器が必要です。 互換性のある振動子の詳細については、garmin.com/transducers を参照してください。

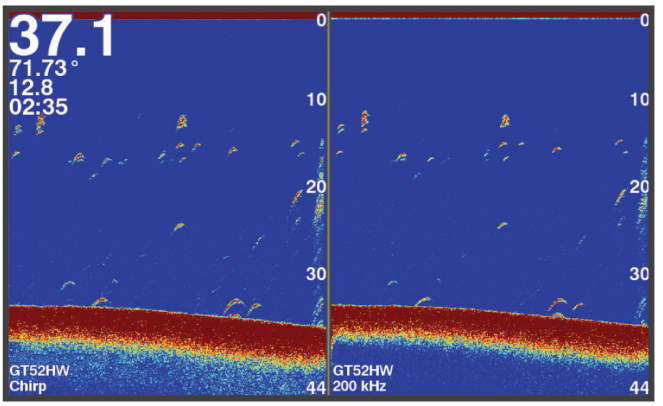
SideVü スキャンソナー技術によって、船舶側面にあるものの画像が表示されます。 これを構造物や魚を見つけるための検索ツールとして使用できます。



①	船舶の左側
②	船舶の右側
③	船舶の変換器
④	丸太
⑤	古タイヤ
⑥	樹木
⑦	船舶と底の間の水中
⑧	船舶側面からの距離

分割画面の周波数

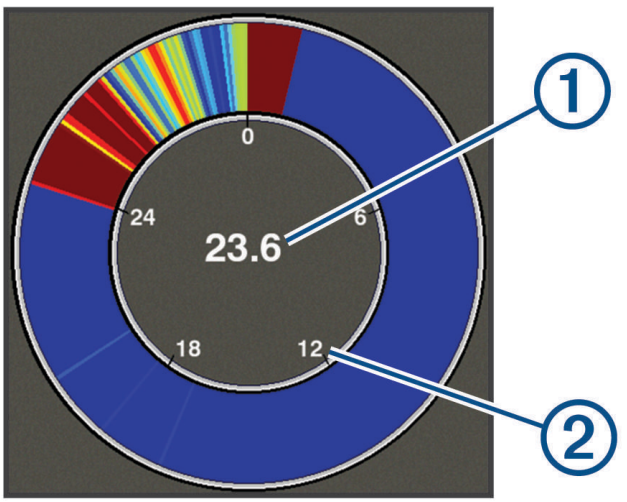
周波数分割画面で、2 つの周波数を表示できます。



フラッシャー

フラッシャーでは、円形の深度スケールにソナー情報が表示され、船舶の下にあるものを示します。 これは上部から始まるリングとして構成され、時計回りに進みます。 深度はリング内のスケールによって示されます。 示された深度で受信されると、ソナー情報がリングで点滅します。 色はソナーリターンのさまざまな強度を示します。

フラッシャーを選択します。



①	現在位置の深度
②	深度スケール

フラッシャーページの追加

一部のモデルでは、フラッシャーページを表示する前に、ホーム画面に追加する必要があります。

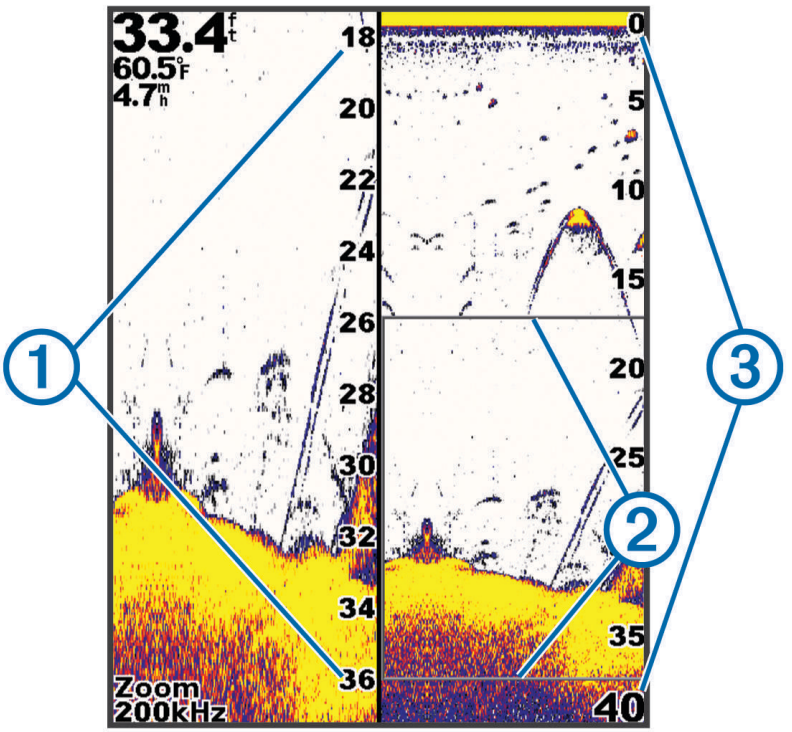
1 ホーム画面で、**ホームのカスタマイズ** > **追加** > **フラッシャー**の順に選択します。

2 **フラッシャー**ページの場所を選択します。

分割ズーム表示

分割ズーム画面では、画面の右側にソナー測定値のグラフ全体が表示され、画面の左側にはそのグラフの拡大部分が表示されます。

ソナー画面から、 > **ズーム** > **分割表示ズーム**の順に選択します。



①	ズーム深度スケール
②	ズームウィンドウ
③	深度範囲

変換器のタイプを選択する

デバイスに含まれていない変換器に接続している場合、ソーナーを正しく機能させるには、変換器の種類の設定が必要な場合があります。 変換器を接続する前に、変換器の種類を選択する必要があります。 変換器の名前は、変換器ケーブルのラベル（コネクタの近く）に記載されています。

このデバイスは、一連の補助変換器（Garmin ClearVü 変換器を含む。garmin.com/transducers で購入可能）と互換性があります。

1 **設定** > **船舶設定** > **Transdcr タイプ**の順に選択します。

2 次の中からオプションを選択します。

- 200/77 kHz のデュアルビーム変換器をご使用の場合は、**2 周波（77/200Khz）**を選択してください。
- 200/50 kHz の二重周波数変換器をご使用の場合は、**2 周波（50/200Khz）**を選択してください。
- その他の種類の変換器を所有している場合は、リストからその変換器を選択してください。

ソナー周波数

注： 使用可能な周波数は、使用している振動子によって異なります。

周波数を調整すると、ソナーを特定の目標と現在の水深に適用させやすくなります。

高周波数は狭いビーム幅を使用します。これは、高速での操作や海が荒れている状況に適しています。底の定義や水温躍層の定義は、高周波数を使用している場合に適しています。

低周波数は幅広いビーム幅を使用します。これにより、漁師は多くのターゲットを見つけることができるようになりますが、海が荒れた状況にあると表面ノイズが多く生成され、底の信号が途切れる可能性があります。ビーム幅が広いほど、ターゲットである魚のリターンに対するアーチが大きくなり、魚の場所の特定には理想的です。また広いビーム幅は深海での動作に適しています。それは低周波数では深海での通過率がすぐれているためです。

CHIRP 周波数により、周波数の範囲全体の各パルスをスイープでき、結果として深海でターゲットを適切に分離できます。CHIRP は、群れの中のそれぞれの魚などのターゲットを明確に特定するため、そして深海での応用に使用できます。CHIRP は一般的に、単一周波数の応用よりもすぐれています。魚のターゲットによっては、固定周波数を使用する方がうまく表示できる場合がありますが、CHIRP 周波数を使用する場合は目標と水の状況を考慮する必要があります。

一部の変換器にも、各変換器要素のプリセット周波数をカスタマイズする機能があります。これにより、水や目標が変化するにつれてプリセットを使用して周波数をすばやく変更できます。

周波数の分割表示を使用して 2 つの周波数を同時に表示すると、低周波数のリターンを詳細に表示できるのと同時に、高周波数のリターンの詳細も表示できます。

注記

ソナー周波数に関する地域の規制に必ず注意してください。例えば、シャチやクジラの群れを保護するために、シャチやクジラの群れの $^{1}/_{2}$ マイル以内では 50 ~ 80 khz の周波数を使用することは禁止されています。お客様の責任において、適用法や条例に従ってデバイスを使用してください。

変換器の周波数の選択

注： すべてのソナー表示と変換器の周波数を調整できるわけではありません。

ソナー画面に表示する周波数を選択することができます。

注記

ソナー周波数に関する地域の規制に必ず注意してください。例えば、シャチやクジラの群れを保護するために、シャチやクジラの群れの½マイル以内では 50 ~ 80 khz の周波数を使用することは禁止されています。お客様の責任において、適用法や条例に従ってデバイスを使用してください。

1. ソナービューで、☰ > **設定値**を選択します。
2. ニーズと水深に適した周波数を選択します。
   周波数の詳細については、ソナー周波数, 12 ページを参照してください。

デバイスキーを使用してソナー画面でウェイポイントを作成する

1. ソナー表示で矢印キーを使用して、保存する位置を選択します。
2. ✔を選択します。
3. 必要に応じて、ウェイポイント情報を編集します。

ソナーを一時停止する

モデルによっては使用できないオプションもあります。

次の中からオプションを選択します。

- **通常魚探**または **ClearVü** ソナー画面で ◀ または ▶ を選択します。
- **SideVü** ソナー画面で ▼ または ▲ を選択します。

ズームを調整する

スパンと一定の開始深度を指定することにより、ズームを手動で調整できます。 たとえば、深度が 15 m で開始深度が 5 m の場合、デバイスは深度 5 m から 20 m の拡大領域を表示します。

また、スパンを指定することにより、デバイスでズームが自動的に調整されるようにすることもできます。 デバイスは、水底からズーム領域を計算します。 たとえば、10 m のスパンを選択すると、デバイスには水底からその上 10 m までの拡大領域が表示されます。

1 ソナー画面から > **ズーム**を選択します。
2 次の中からオプションを選択します。
   - **海底固定**を選択して、画面を水底に ロックします。
   - ズームを手動で設定するには、**手動**を選択します。
   - ズームを自動で設定するには、**自動**を選択します。
   - 分割ズーム表示に戻るには、**分割表示ズーム**を選択します。

画面を水底に ロックする

画面を水底に ロックすることができます。 たとえば、20 メートルのスパンを選択した場合、デバイスは水底からその上 20 メートルまでの領域を表示します。 スパンは右側に表示されます。

1 ソナー表示から、 > **ズーム** > **海底固定**を選択します。
2 スパンを選択します。

ソーナーゲイン

ゲイン設定は、ソーナー受信器の感度を制御して、水深や水の透明度を補正します。 ゲインを上げると、より詳細に表示され、ゲインを下げると、画面のクラッタが減少します。

注： 1 つのソーナー表示でゲインを設定すると、その設定はすべての表示に適用されます。

感度を自動に設定する

注： 周波数分割表示画面で感度を設定するには、各周波数を個別に設定する必要があります。

1 > **感度**を選択します。
2 該当する場合は、**自動感度 可動**を選択します。
3 次の中からオプションを選択します。
   - 弱いソナーリターンを、多くのノイズを含めて自動的に増幅して表示するには、**自動 高**を選択します。
   - 中程度の感度のソナーリターンを中程度のノイズで自動的に表示するには、**自動 中**を選択します。
   - 低い感度のソナーリターンを少ないノイズで自動的に表示するには、**自動 低**を選択します。

ゲインを手動で設定する

1 ソナー画面から、 > **感度**を選択します。
2 画面の水部分でノイズが表示されるまで、 または を選択します。
3 または を選択して、ゲインを下げます。

深度スケールの範囲を調整する

画面の右側に表示される深度スケールの範囲を調整できます。 自動範囲設定では、ソナー画面下の 3 分 1 以内に底を維持します。これは、地形の変化が少ないか中程度である底をトラッキングする場合に役立つことがあります。

ドロップオフや絶壁のように急激に深度が変化する場合は、範囲を手動で調整すると、指定した深度範囲を表示できます。 設定した手動範囲内の任意の位置に底がある限り、底は画面に表示されます。

1 ソナー画面から、 > **レンジ**を選択します。

2 次の中からオプションを選択します。

- 深度に応じてデバイスで範囲を自動調整できるようにするには、自動を選択します。
- 範囲を手動で増やす場合は、 または を選択します。
- 範囲を手動で減らす場合は、 または を選択します。

注： ソナー画面から、 と を選択してすばやく手動で範囲を調整します。

ある画面で範囲を設定すると、その設定は、 SideVü 画面を除いて、すべての画面に適用されます。

ソーナー設定

注： 一部のモデルおよび変換器には適用できないオプションおよび設定があります。

深度線を表示および調整する

ソナー画面上で、水平線を表示および調整できます。 ラインの深度は、画面の右側に示されます。

注： 深度線を 1 つの画面上に表示すると、深度線はすべての画面上に表示されます。

1 ソナー画面から、 > **魚探設定** > **水深線**の順に選択します。

2 を選択します。

3 **水深線**を調整するには、 または を選択します。

スクロール速度を設定する

ソナー画像が画面全体を移動するレートを設定できます。 スクロール速度が速いと、特に移動中またはトローリング中に、さらに詳細が表示されます。 スクロール速度が遅いと、ソナー情報が画面に長く表示されます。 1 つのソナー表示で設定したスクロール速度は、すべてのソナー表示に適用されます。

1 ソナー表示から、 > **魚探設定** > **送画速度**の順に選択します。

2 次の中からオプションを選択します。

- 地表速度を使用してスクロール速度を自動的に調整するには、**自動**を選択します。

  [自動] 設定によって、船舶速度と一致するスクロールレートが選択されるため、水中のターゲットが正確なアスペクト比で描画され、ゆがみが少なくなります。 Garmin ClearVü または SideVü ソナー表示の場合、[自動] 設定を使用することをお勧めします。
- 非常に高速なスクロール速度を使用するには、[Ultrascroll®] を選択します。

  [Ultrascroll] オプションによって新しいソナーデータのスクロールが速くなりますが、画像品質が低下します。 多くの場合、[高速] オプションによって画像のスクロールの速さとターゲットのゆがみの少なさのバランスがとれます。

底探査制限の設定

自動範囲機能で探査される底の最大深度を設定できます。 制限を浅く設定すると、制限が深い場合より底のデータを速く取得できます。

1 ソナー画面から、 > **魚探設定** > **ボトム探査制限**の順に選択します。

2 範囲を選択します。

ソナー表示設定

ソナービューから、☰ > **魚探設定** > **表示**の順に選択します。

カラースキーム: カラースキームを設定します。

エッジ: 最も強い信号を下から強調表示し、信号の強弱を定義できるようにします。

A スコープ: 垂直のフラッシャーを画面の右側に沿って表示します。これにより、ターゲットまでの縮尺に沿った距離がすぐにわかります。

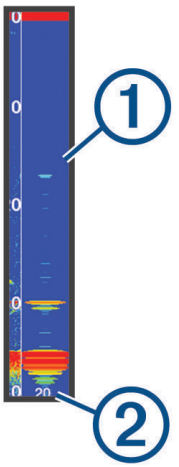
魚記号: ソナーによる浮遊ターゲットの解釈方法を設定します。

A スコープの電源をオンにする

A スコープは、全画面のソナー表示の右側にある垂直のフラッシャーです。この機能は、最新の受信ソナーデータを見やすいように拡張します。これは底の付近にいる魚を検出する際にも役立ちます。

注： この機能は、一部のソナー画面では使用できません。

全画面表示で、☰ > **魚探設定** > **表示** > **A スコープ**の順に選択します。



①	A スコープ
②	現在深度におけるソナーコーンの直径

浮遊ターゲットの外観を設定する

注： 1 つの画面で浮遊ターゲットの外観を設定すると、その設定はすべての画面に適用されます。

注： この機能を利用できないソナー表示もあります。

	浮遊ターゲットを記号として表示します。
	浮遊ターゲットをターゲット深度情報と共に記号として表示します。
	浮遊ターゲットをバックグラウンドソナー情報と共に記号として表示します。
	浮遊ターゲットをバックグラウンドソナー情報およびターゲット深度情報と共に記号として表示します。

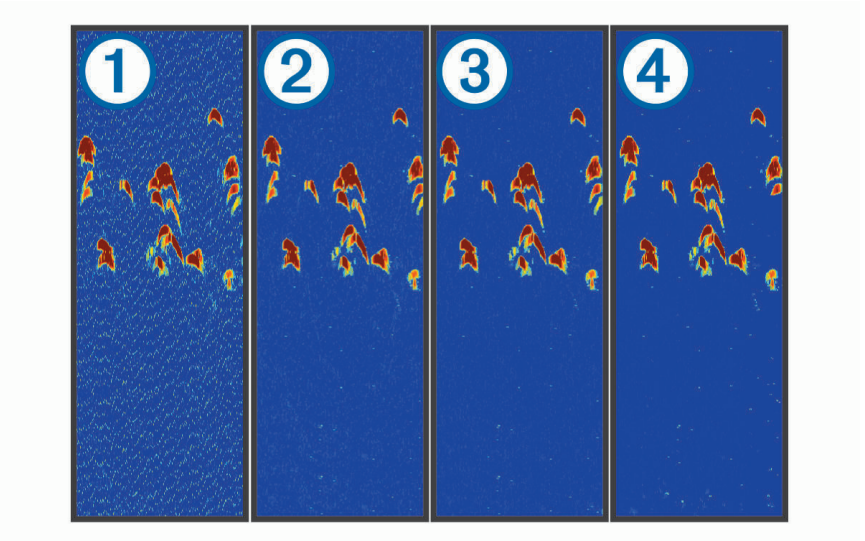
1 ソナー画面から、☰ > **魚探設定** > **表示** > **魚記号**の順に選択します。

2 オプションを選択します。

ソナーノイズ拒否設定

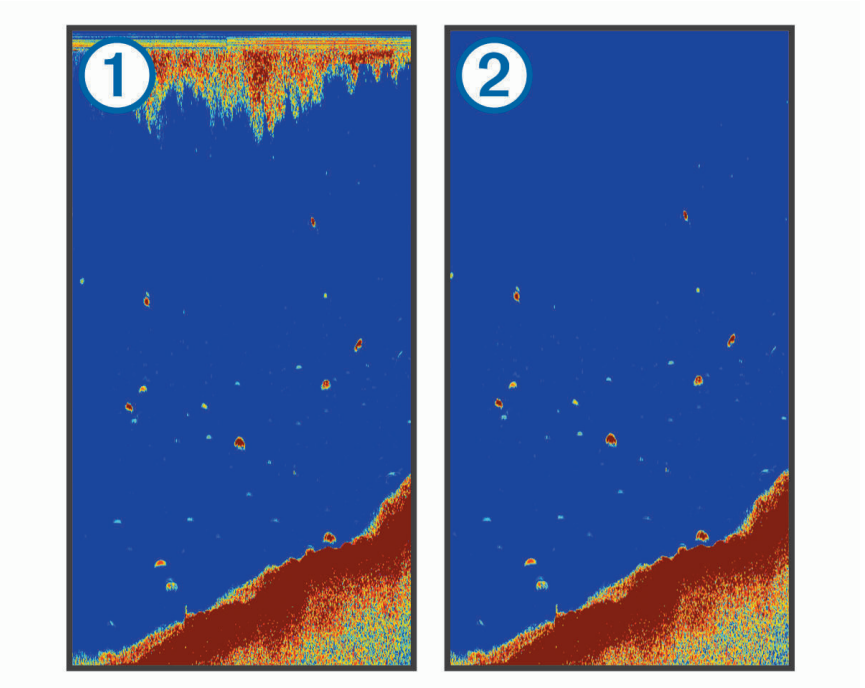
ソナー表示で、 > **魚探設定** > **ノイズ除去**の順に選択します。

干渉: 感度を調整して近くのノイズソースからの干渉の影響を抑えます。



干渉設定をオフ ① から、低 ②、中 ③、高 ④ に調整すると、ノイズが徐々に除去されますが、強いターゲットリターンにはほとんど影響がありません。画面から干渉を除去するには、必要な改善を実現する最低の干渉設定を使用する必要があります。干渉を取り除くには、ノイズの原因となる取り付けの問題を修正するのが最善の方法です。

表層雑音: 水面近くでのソナーリターンを非表示にします。表面ノイズを非表示にすることで、画面のクラッタが低減されます。



表面ノイズ ① は変換器と水の干渉に起因します。表面ノイズ ② を非表示にすると、クラッタを低減できます。ビーム幅を広くすると (周波数を低くする)、表示されるターゲットの数が増えますが、より多くの表面ノイズが生成される場合があります。

TVG: 表面ノイズを低減します。

この制御は、水面近くのクラッタまたはノイズを制御および抑制する場合に最適です。また、表面ノイズで非表示またはマスクされる表面近くのターゲットを表示することができます。

オーバーレイの数の設定

ソナー画面に表示されるデータをカスタマイズできます。

ソナー画面から、☰ > **複表示データ**を選択します。

航法表示: 船舶が目的地に航行しているときにナビゲーションインセットを表示します。

コンパステープ: コンパステープデータバーを表示します。

機器電圧: デバイスの電圧を表示します。

深度: 変換器の現在の深度を表示します。

スピード: 船舶の現在の速度を示します。

水温: 現在の水温を表示します。

時刻: 現在の時刻を表示します。

Garmin QuickdrawContours マッピング

⚠ 警告

Garmin Quickdraw 等高線マッピング機能により、ユーザーがマップを生成できます。 Garmin は、第三者によって作成された地図の正確性、信頼性、完全性、または適時性についていかなる表明も行いません。 第三者によって作成された地図を使用したり信用することは、お客様ご自身の責任になります。

Garmin Quickdraw Contours の地図機能を使用すると、等高線と深度ラベルが記載された任意の水域の地図をすばやく作成できます。

Garmin Quickdraw Contours がデータを記録するときは、船舶アイコンが色付きの丸で囲われます。 この丸は、各パスでスキャンされた地図の隣接範囲を表します。

緑色の丸は適切な深度および GPS 位置、ならびに 16 km/h (10 mph) を下回る速度を示します。 黄色の丸は適切な深度および GPS 位置、ならびに 16 ~ 32 km/h (10 ~ 20 mph) の速度を示します。 赤色の丸は適切でない深度または GPS 位置、ならびに 32 km/h (20 mph) を上回る速度を示します。

組み合わせ画面に、または地図上の単一のビューとして Garmin Quickdraw Contours を表示できます。

保存されるデータの量は、データを記録するときのデバイスのメモリー容量、ソナーソース、船舶の速度によって異なります。 シングルビームソナーを使用すると、より長い間記録することができます。 概算では、デバイスに約 1,500 時間分のデータを記録できます。

Garmin Quickdraw 等深線機能を使用して水域の地図を作成する

Garmin Quickdraw 等深線機能を使用する前に、ソナー深度と GPS 位置を取得する必要があります。

1 **Quickdraw 地図** > ☰ > **Quickdraw Contours** > **記録開始**の順に選択します。

2 記録が完了したら、☰ > **Quickdraw Contours** > **記録停止**の順に選択します。

Garmin Quickdraw 等深線地図にラベルを追加する

Garmin Quickdraw 等深線地図にラベルを追加して、危険または主要ポイントをマークすることができます。

1 **Quickdraw 地図**で位置を選択します。
2 **Quickdraw ラベルを追加する**を選択します。
3 ラベルのテキストを入力し、**完了**を選択します。

Garmin Quickdraw 等深線の削除

Garmin Quickdraw 等深線地図を削除できます。

Quickdraw 地図 > ☰ > **Quickdraw Contours** > **削除**の順に選択します。

Garmin Quickdraw コミュニティ

Garmin Quickdraw コミュニティは、他のユーザーが作成した地図をダウンロードできる、だれでも利用可能な無料のオンラインコミュニティです。 Garmin Quickdraw 等高線地図を他のユーザーと共有できます。

デバイスに Wi-Fi テクノロジーが搭載されている場合、Garmin Quickdraw アプリを使用して ActiveCaptain コミュニティにアクセスすることができます (ActiveCaptain で Garmin Quickdraw コミュニティとつながる, 18 ページ)。

注： Garmin Quickdraw コミュニティに参加するには、Garmin デバイスにメモリーカードスロットまたは Wi-Fi テクノロジーが搭載されている必要があります。

ActiveCaptain で Garmin Quickdraw コミュニティとつながる

1 モバイルデバイスから、ActiveCaptain アプリを開き、STRIKER Vivid デバイスに接続します (ActiveCaptain アプリの操作手順, 5 ページ)。
2 アプリから、**Quickdraw コミュニティ**を選択します。

コミュニティの他のユーザーによる等高線をダウンロードしたり (ActiveCaptain を使用した Garmin Quickdraw コミュニティ地図のダウンロード, 18 ページ)、作成した等高線を共有したりできます (ActiveCaptain を使用して Garmin Quickdraw 等深線地図を Garmin Quickdraw コミュニティと共有する, 18 ページ)。

ActiveCaptain を使用した Garmin Quickdraw コミュニティ地図のダウンロード

他のユーザーが作成し、Garmin Quickdraw コミュニティと共有している Garmin Quickdraw 等高線地図をダウンロードでき ます。

1 モバイルデバイスの ActiveCaptain アプリから、**Quickdraw コミュニティ** > **等高線を検索**を選択します。
2 地図と検索機能を使用して、ダウンロードする領域を検索します。

赤色のドット領域は、当該エリアの共有されている Garmin Quickdraw 等高線地図を示します。

3 **ダウンロードする地域を選択する**を選択します。
4 ボックスをドラッグして、ダウンロードするエリアを選択します。
5 ダウンロードするエリアを変更するには、角をドラッグします。
6 **ダウンロードエリア**を選択します。

次回 ActiveCaptain アプリを STRIKER Vivid デバイスに接続すると、ダウンロードされた等高線がデバイスに自動的に転送されます。

ActiveCaptain を使用して Garmin Quickdraw 等深線地図を Garmin Quickdraw コミュニティと共有する

自分で作成した Garmin Quickdraw 等深線地図を Garmin Quickdraw コミュニティの他の人と共有できます。

等深線地図を共有すると、その等深線地図のみが共有されます。 ウェイポイントは共有されません。

ActiveCaptain アプリの設定時に、等高線をコミュニティと自動的に共有すると選択した可能性があります。 それ以外の場合は、次の手順に従って共有を有効にします。

モバイルデバイス上の ActiveCaptain アプリケーションから、**プロッターと同期** > **コミュニティに投稿する**を選択します。

次回、ActiveCaptain アプリを STRIKER Vivid デバイスに接続すると、等高線地図がコミュニティに自動的に転送されます。

地図設定

Quickdraw 地図 > ☰を選択します。

ポイント: ウェイポイントのリストを表示します。

ウェイポイント 表示: チャートにウェイポイントを表示する方法を設定します。

Quickdraw Contours: 海底の等深線の描画をオンにし、漁場地図ラベルを作成できるようにします。

ルート: ルートのリストを表示します。

航跡: 地図に走行履歴を表示します。

検索: 保存されているルートとウェイポイントを検索できます。

マップ設定: 地図上で表示方法を設定し、誘導線（地図上で船首から進行方向に描画された線）を表示します。

複表示データ: 地図上に表示されるデータをカスタマイズできます。

Garmin Quickdraw 等深線の設定

チャートから、☰ > **Quickdraw Contours** > **設定**を選択します。

オフセットを記録中: ソナー深度と等深線記録深度の間の間隔を設定します。最後の記録から水位が変化した場合は、この設定を調整して、両方の記録で記録深度が同じになるようにします。

たとえば、最後に記録されたソナー深度が 3.1 m（10.5 ft.）で、今日のソナー深度が 3.6 m（12 ft.）の場合は、オフセットを記録中値に-0.5 m（-1.5 ft.）を入力します。

ユーザー表示オフセット: 等深線深度と深度ラベルの差異を独自の等深線地図に設定し、水域の水位の変化または記録された地図の深度エラーを補正します。

コミュニティ表示オフセット: 等深線深度と深度ラベルの差異をコミュニティ等深線地図に設定し、水域の水位の変化または記録された地図の深度エラーを補正します。

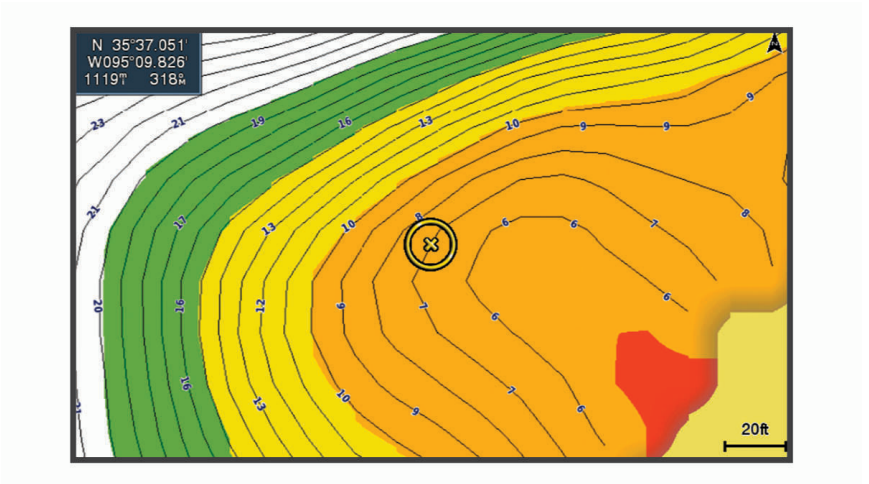
カラーを調査する: Garmin Quickdraw 等深線表示の色を設定します。この設定をオンにすると、記録の質が色で示されます。この設定をオフにすると、等深線エリアでは標準地図の色が使用されます。

緑色は適切な深度および GPS 位置、ならびに 16 km/h（10 mph）を下回る速度を示します。黄色は適切な深度および GPS 位置、ならびに 16 ~ 32 km/h（10 ~ 20 mph）の速度を示します。赤色は適切でない深度または GPS 位置、ならびに 32 km/h（20 mph）を上回る速度を示します。

深度範囲の濃淡

地図上で、ターゲットの魚が現在かかっている水深を示す色の範囲を設定できます。 より深い範囲を設定して、特定の深度範囲内で底の深度がどのくらい速く変化するかを監視できます。 最大 10 の深度範囲を作成できます。 湖沼域の釣りに備えて、深度範囲が最大 5 つあるため、地図のクラッタを軽減できます。 深度範囲は、すべてのチャートとすべての水域に適用されます。

一部の Garmin LakeVü™とプレミアム補足チャートには、デフォルトで深度範囲の色分けがあります。



赤	0 ~ 1.5 m (0 ~ 5 ft.)
橙	1.5 ~ 3 m (5 ~ 10 ft.)
黄	3 ~ 4.5 m (10 ~ 15 ft.)
緑	4.5 ~ 7.6 m (15 ~ 25 ft.)

STRIKER Vivid でナビゲーション

⚠ 警告

ナビゲーション時に、コースが陸地や浅瀬を通過する場合があります。目視の情報に基づいて操船し、陸地、浅瀬、その他の危険な障害物を避けるようにします。これを行わないと事故が発生し、物的損害、ケガ、または死亡につながるおそれがあります。

開始またはルートへのいずれかの方法を使用して、目的地までのコースを設定して進むことができます。

開始: 目的地まで直接移動します。これは、目的地までナビゲーションする標準のオプションです。デバイスにより、目的地までの直線コースまたはナビラインが作成されます。経路が陸地やその他の障害物の上を通過する場合があります。

ルートへ: 現在の位置から目的地までのルートを作成します。また、途中に方向転換を追加することができます。このオプションでは、目的地までの直線コースが提供されますが、陸地やその他の障害物を避けるために、ルートに方向転換を追加することができます。

名前で目的地を検索する

保存したウェイポイント、保存したルート、保存したトラック、および海洋サービスの目的地を名前で検索できます。

1 **ユーザーデータ** > **名前で検索する**の順に選択します。
2 目的地の名前の少なくとも一部を入力します。
3 必要に応じて、**完了**を選択します。
検索条件を含む最寄りの目的地が 50 地点表示されます。
4 目的地を選択します。

地図上でウェイポイントを作成する

1 **Quickdraw 地図**で位置を選択します。
2 ✔を選択します。
チャートの右側にオプションのリストが表示されます。 オプションは、選択した位置またはオブジェクトによって異なります。
3 **Waypoint 作成**を選択します。

ウェイポイントにナビゲーションする

1 **Quickdraw 地図**で、矢印キーを使用して、ウェイポイントを選択します。
ウェイポイント名が画面に表示されます。
2 ✔を選択します。
3 **航法開始** > **開始**の順に選択します。

地図を使用してルートを作成したりナビゲーションする

出発地点は、地図上の現在位置または別の位置に設定できます。

1 **ユーザーデータ** > **ルート** > **新規** > **海図を利用したルート**の順に選択します。
2 地図をパンして、ルートの出発地点を選択します。
3 ✔を選択して、ルートに方向転換点を追加します。
4 繰り返して、ルートに方向転換点をすべて追加します。
5 ☰ > **航法開始**] を選択します。
6 オプションを選択します。

ナビゲーションを停止する

ナビゲーションチャートまたは釣りチャートから、☰ > **ナビゲーション中止**の順に選択します。

ウェイポイント

ウェイポイントとは、デバイスに記録して保存した場所です。 ウェイポイントでは、今いる場所、これから行く場所、今までいた場所を登録することができます。

現在の位置をウェイポイントとしてマークする

いずれかの画面から、📍を選択します。

さまざまな位置にウェイポイントを作成する

1 **ユーザーデータ** > **ポイント** > **新規ウェイポイント**の順に選択します。
2 次の中からオプションを選択します。
- 位置座標を入力してウェイポイントを作成するには、**座標の入力**を選択し、座標を入力します。
- チャートを使用してウェイポイントを作成するには、**使用チャート**を選択し、位置を選択してから✔を選択します。
- 範囲 (距離) と方位を使用してウェイポイントを作成するには、**範囲/方位を入力**を選択して、情報を入力します。

落水位置にマーキングおよびナビゲーションする

任意の画面で、📍 > **マンオーバーボード** > **はい**の順に選択します。
デバイスはその位置までの直線コースを設定します。

地図上で距離を測定する

現在位置と別の位置間の距離を測定できます。

1 地図をパンします。
2 ✓ > **距離を測定する**を選択します。
2 つの位置間の距離は画面の左上隅に表示されます。
3 必要に応じて、✓を選択してピンを移動し、別の位置までの距離を測定します。

すべてのウェイポイントのリストを表示する

ユーザーデータ > **ポイント**の順に選択します。

保存したウェイポイントを編集する

1 **ユーザーデータ** > **ポイント**の順に選択します。
2 ウェイポイントを選択します。
3 **編集ウェイポイント**を選択します。
4 次の中からオプションを選択します。
- 名前を追加するには、**名前**を選択し、名前を入力します。
- 記号を変更するには、**シンボル**を選択します。
- 深度を変更するには、**深度**を選択します。
- 水温を変更するには、**水温**を選択します。
- コメントを変更するには、**コメント**を選択します。
- ウェイポイントの位置を移動するには、**位置**を選択します。

ウェイポイントまたは MOB を削除する

1 **ユーザーデータ** > **ポイント**の順に選択します。
2 ウェイポイントまたは MOB を選択します。
3 **削除**を選択します。

すべてのウェイポイントを削除する

ユーザーデータ > **データの管理** > **ユーザーデータクリアー** > **ポイント** > **すべて**の順に選択します。

ルート

ルートは、最終的な目的地に至る一連のウェイポイントまたは場所です。

地図を使用してルートを作成したりナビゲーションする

出発地点は、地図上の現在位置または別の位置に設定できます。

1 **ユーザーデータ** > **ルート** > **新規** > **海図を利用したルート**の順に選択します。
2 地図をパンして、ルートの出発地点を選択します。
3 ✓を選択して、ルートに方向転換点を追加します。
4 繰り返して、ルートに方向転換点をすべて追加します。
5 ☰ > **航法開始**] を選択します。
6 オプションを選択します。

ルート作成と保存

この手順では、ルートと、ルートにあるすべてのウェイポイントを保存します。 始点として、現在の位置または別の位置を使用できます。

1 **ユーザーデータ** > **ルート** > **新規** > **使用チャート**の順に選択します。
2 ルートの出発地を選択します。
3 画面の指示に従って、方向転換を追加します。
4 必要に応じて、手順 3 を繰り返し、方向転換を追加します。
5 最終目的地を選択します。

ルートのリストを表示する

ユーザーデータ > **ルート**の順に選択します。

保存したルートを編集する

ルートの名前を変更したり、ルートに含まれる方向転換を変更したりできます。

1 **ユーザーデータ** > **ルート**の順に選択します。
2 ルートを選択します。
3 **編集ルート**を選択します。
4 次の中からオプションを選択します。
   - 名前を変更するには、**名前**を選択し、名前を入力します。
   - 方向転換のリストからウェイポイントを選択するには、**編集変針** > **変針リストを使用して、**の順に選択し、リストからウェイポイントを選択します。
   - チャートを使用して方向転換を選択するには、**編集変針** > **使用チャート**の順に選択し、チャート上の位置を選択します。

保存したルートを参照してナビゲーションする

ルートのリストを参照して、いずれかのルートをナビゲーションする前に、少なくとも 1 つのルートを作成して保存する必要があります。

1 **ユーザーデータ** > **ルート**の順に選択します。
2 ルートを選択します。
3 **航法開始**を選択します。
4 次の中からオプションを選択します。
   - ルートを作成したときに使用した出発地点からのルートをナビゲーションするには、**前方**を選択します。
   - ルートを作成したときに使用した目的地点からのルートをナビゲーションするには、**逆方向**を選択します。

   ピンクの線が表示されます。 ピンクの線の中央には、現在の位置から目的地までの補正されたコースを表す細い紫の線があります。 補正されたコースは動的であり、船舶がコースを外れると船舶とともに移動します。
5 ピンクの線で示されたコースを確認します。
6 ルートの各区間でピンクの線をたどって操船し、陸地、浅瀬、その他の障害物を避けるようにします。
7 船舶がコースを外れた場合は、紫の線 (補正されたコース) をたどって目的地に進むか、ピンクの線 (直線コース) に戻るよう操船します。

保存したルートを参照してルートに並行してナビゲーションする

ルートのリストを参照して、いずれかのルートをナビゲーションする前に、少なくとも 1 つのルートを作成して保存する必要があります。

1 **ユーザーデータ** > **ルート**の順に選択します。
2 ルートを選択します。
3 **航法開始**を選択します。
4 **オフセット**を選択し、ルートから特定の距離をオフセットして、ルートに並行してナビゲーションします。
5 ルートをナビゲーションする方法を示します。
   - ルートを作成したときに使用した出発地点からの元のルートの左側をナビゲーションするには、**前方 - 左舷**を選択します。
   - ルートを作成したときに使用した出発地点からの元のルートの右側をナビゲーションするには、**前方 - 右舷**を選択します。
   - ルートを作成したときに使用した目的地点からの元のルートの左側をナビゲーションするには、**逆方向 - 左舷**を選択します。
   - ルートを作成したときに使用した目的地点からの元のルートの右側をナビゲーションするには、**逆方向 - 右舷**を選択します。

   ピンクの線が表示されます。 ピンクの線の中央には、現在の位置から目的地までの補正されたコースを表す細い紫の線があります。 補正されたコースは動的であり、船舶がコースを外れると船舶とともに移動します。
6 ピンクの線で示されたコースを確認します。
7 ルートの各区間でピンクの線をたどって操船し、陸地、浅瀬、その他の障害物を避けるようにします。
8 船舶がコースを外れた場合は、紫の線 (補正されたコース) をたどって目的地に進むか、ピンクの線 (直線コース) に戻るよう操船します。

保存したルートを削除する

1 **ユーザーデータ** > **ルート**の順に選択します。
2 ルートを選択します。
3 **削除**を選択します。

保存したすべてのルートを削除する

ユーザーデータ > **データの管理** > **ユーザーデータクリアー** > **ルート**の順に選択します。

トラック

トラックは、船舶の経路の記録です。 現在記録されているトラックは、アクティブトラックと呼ばれ、保存することができます。 それぞれのチャートまたは 3D チャートビューにトラックを表示できます。

トラックを表示する

ユーザーデータ > **航跡** > **航跡**の順に選択します。

チャート上のトレイルラインは、トラックを示します。

アクティブトラックを消去する

ユーザーデータ > **航跡** > **動作中 航路クリアー**の順に選択します。

トラックのメモリが消去され、アクティブトラックが引き続き記録されます。

アクティブトラックを保存する

現在記録されているトラックは、アクティブトラックと呼ばれます。

1 **ユーザーデータ** > **航跡** > **動作中 航跡を保存**の順に選択します。
2 次の中からオプションを選択します。
   - アクティブトラックが開始された時刻を選択します。
   - **全ログ**を選択します。

保存したトラックのリストを表示する

ユーザーデータ > **航跡** > **保存済 航跡**の順に選択します。

保存したトラックを編集する

1 **ユーザーデータ** > **航跡** > **保存済 航跡**の順に選択します。
2 トラックを選択します。
3 **編集航跡**を選択します。
4 次の中からオプションを選択します。
   - **名前**を選択し、新しい名前を入力します。
   - **航跡色**を選択し、色を選択します。

トラックをルートとして保存する

1 **ユーザーデータ** > **航跡** > **保存済 航跡**の順に選択します。
2 トラックを選択します。
3 **編集航跡** > **名前をつけて保存** > **名前を付けて保存ルート**を選択します。

記録したトラックを参照してナビゲーションする

トラックのリストを参照して、トラックをナビゲーションする前に、1 つ以上のトラックを記録して保存する必要があります (アクティブトラックを保存する, 25 ページ)。

1 **ユーザーデータ** > **航跡** > **保存済 航跡**の順に選択します。
2 トラックを選択します。
3 **航跡追尾**を選択します。
4 次の中からオプションを選択します。
   - トラックを作成したときに使用した出発地点からのトラックをナビゲーションするには、**前方**を選択します。
   - トラックを作成したときに使用した目的地点からのトラックをナビゲーションするには、**逆方向**を選択します。
5 色付きの線で示されたコースを確認します。
6 ルートの各区間で線をたどって操船し、陸地、浅瀬、その他の障害物を避けるようにします。

保存したトラックを削除する

1 **ユーザーデータ** > **航跡** > **保存済 航跡**の順に選択します。
2 トラックを選択します。
3 **削除**を選択します。

保存したすべてのトラックを削除する

ユーザーデータ > **データの管理** > **ユーザーデータクリアー** > **保存済 航跡**の順に選択します。

アクティブトラックを再トレースする

現在記録されているトラックは、アクティブトラックと呼ばれます。

1 **ユーザーデータ** > **航跡** > **動作中 航跡追従**の順に選択します。
2 次の中からオプションを選択します。
   - アクティブトラックが開始された時刻を選択します。
   - **全ログ**を選択します。
3 色付きの線で示されたコースを確認します。
4 色付きの線をたどって操船し、陸地、浅瀬、その他の障害物を避けるようにします。

アクティブトラックの色を設定する

1 **ユーザーデータ** > **航跡** > **有効航路オプション** > **航跡色**の順に選択します。
2 トラックの色を選択します。

記録中にトラックのログメモリを管理する

1 **ユーザーデータ** > **データの管理** > **航跡** > **有効航路オプション**の順に選択します。
2 **記録モード**を選択します。
3 次の中からオプションを選択します。
   - トラックのメモリがいっぱいになるまでトラックログを記録するには、**満了**を選択します。
   - トラックログを継続して記録し、古いトラックデータを新しいデータに置き換えるには、**ラップ**を選択します。

トラックログの記録間隔を設定する

トラックプロットが記録される頻度を示すことができます。 より頻度の高いプロットを記録すると、精度が向上しますが、トラックログが早くいっぱいになります。 メモリをより効率的に使用するために、解像度間隔を設定することをお勧めします。

1 **ユーザーデータ** > **航跡** > **有効航路オプション** > **記録間隔** > **インターバル**の順に選択します。
2 次の中からオプションを選択します。
   - ポイント間の距離に基づいてトラックを記録するには、**距離** > **変更**の順に選択し、距離を入力します。
   - 時間間隔に基づいてトラックを記録するには、**時間** > **変更**の順に選択し、時間間隔を入力します。
   - コースとの不一致に基づいてトラックを記録するには、**解像度** > **変更**の順に選択し、トラックポイントを記録する前に、正しいコースからの許容最大エラーを入力します。

デバイス設定

システム設定

設定 > **システム**の順に選択します。

ディスプレイ: バックライトの明るさ (バックライトを調整する, 4 ページ)とカラースキーム (表示モードを調整する, 4 ページ)を調整します。

発信音: アラームと選択時に鳴る音をオン / オフします (ビープ音を設定する, 4 ページ)。

GPS: GPS 衛星の設定と修正に関する情報を表示します。

自動起動: 電源が投入されたときにデバイスを自動的にオンにします。

キーボード配列: キーボードの配列をアルファベットまたはコンピュータのキーボード配列に設定します。

言語: 画面に表示される言語を設定します。

システム情報: デバイスとソフトウェアのバージョンに関する情報を提供します。

シミュレーター: シミュレーターをオンにして、速度とシミュレーションした場所を設定できます。

システム情報

設定 > **設定** > **システム情報**の順に選択します。

イベントログ: システムイベントのログを表示できます。

ソフトウェア情報: デバイスとソフトウェアのバージョンに関する情報を提供します。

Garmin デバイス: 接続されている Garmin デバイスに関する情報を提供します。

リセット: デバイスを工場出荷時の設定に戻します。

注： これにより、入力したすべての設定情報が削除されます。

マイベッセルの設定

注： 一部の設定およびオプションには、追加のハードウェアが必要です。 一部の設定は、有効な深度データがある場合にのみ使用できます。

設定 > **船舶設定**の順に選択します。

Transdcr タイプ: デバイスに接続されている振動子のタイプを表示します (変換器のタイプを選択する, 11 ページ)。

キールオフセット: キールの深さに関する水面測定値を補正して、振動子の位置からではなく、キールの底部から深さを測定できるようにします (キールオフセットを設定する, 28 ページ)。

温度オフセット: 温度対応変換器の水温測定値を補正します (水温オフセットの設定, 29 ページ)。

キールオフセットを設定する

キールオフセットを入力して、振動子の取り付け位置の水深測定値を補正できます。 これにより、必要に応じて、キールの下の水深または真の水深を表示できます。

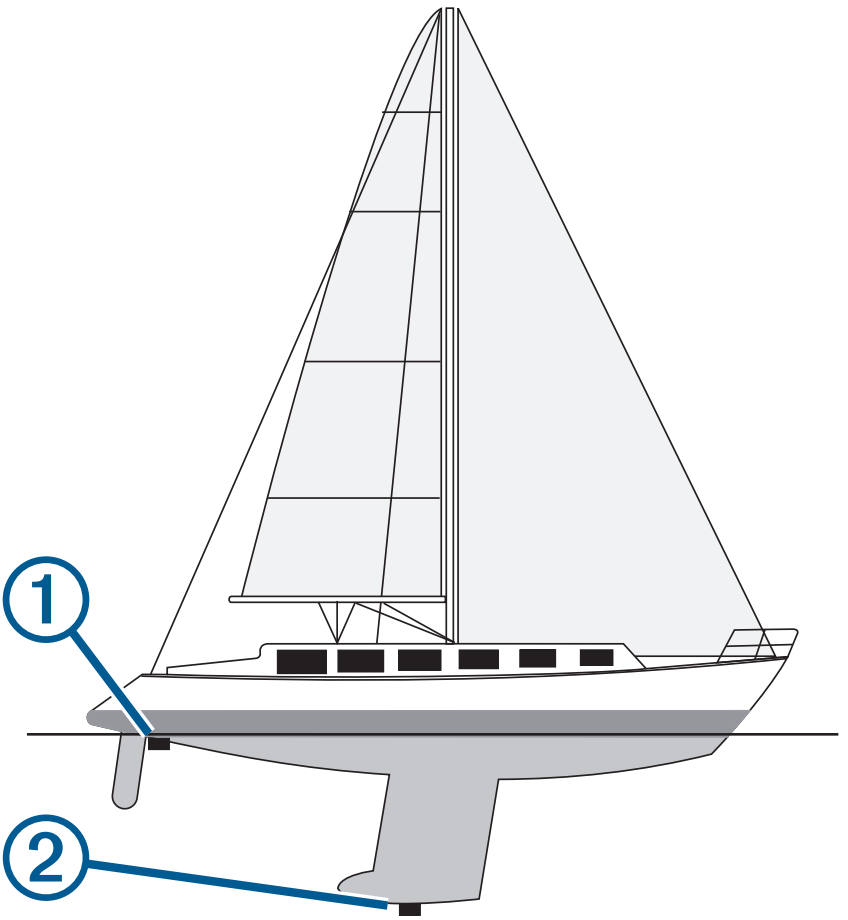
キールの下、またはボートの最も低い位置の下の水深を知りたい場合で、振動子が喫水線、またはキールの末尾よりも上の位置に取り付けられている場合、振動子の位置からボートのキールまでの距離を測定します。

真の水深を知りたい場合に振動子が喫水線の下に取り付けられている場合は、振動子の最下部から喫水線までの距離を測定します。

注： このオプションは、有効な深度データがある場合にのみ使用できます。

1 次のようにして距離を測定します。

- 振動子が喫水線①またはキールの末尾よりも上の位置に取り付けられている場合は、振動子の位置からボートのキールまでの距離を測定します。 この値を正の数として入力します。
- 振動子がキール②の最下部に取り付けられていて、真の水深を知りたい場合は、振動子から喫水線までの距離を測定します。 この値を負の数として入力します。



2 **設定** > **船舶設定** > **キールオフセット**を選択します。

3 振動子が喫水線に取り付けられている場合は を選択し、振動子がキールの最下部に取り付けられている場合は を選択します。

4 矢印キーを使用して、ステップ 1 で測定したキールオフセットを入力します。

水温オフセットの設定

温度オフセットを設定して、温度対応センサーからの温度読み値を補正できます。

1 デバイスに接続されている温度対応変換器を使用して、水温を測定します。
2 正確であるとわかっている別の温度計または温度センサーを使用して、水温を測定します。
3 手順 2 で測定した水温から手順 1 で測定した水温を減算します。
この値が温度オフセットです。 デバイスに接続されているセンサーによって測定された水温が実際の温度よりも低い場合は、手順 5 でこの値を正の数として入力します。 デバイスに接続されているセンサーによって測定された水温が実際の温度よりも高い場合は、手順 5 でこの値を負の数として入力します。
4 **設定** > **船舶設定** > **温度オフセット**の順に選択します。
5 矢印キーを使用して、手順 3 で測定した水温オフセットを入力します。

アラートの設定

⚠ 注意

アラーム音を鳴らすには、発信音設定をオンにする必要があります (ビープ音を設定する, 4 ページ)。 アラーム音を設定しないと、負傷または物的損害の原因になる可能性があります。

ナビゲーションアラート

設定 > **アラーム** > **ナビゲーション**の順に選択します。

到着: 方向転換または目的地まで指定した距離または時間になったときにアラートを鳴らすよう設定します。

アンカー移動: 錨泊時に指定した偏流距離を超えたときにアラートを鳴らすよう設定します。

航路離脱: 指定した距離だけコースから外れたときにアラートを鳴らすよう設定します。

システムアラート

設定 > **アラーム** > **システム**の順に選択します。

アラーム: アラームクロックを設定します。

機器電圧: バッテリーが指定した低電圧になったときにアラームを鳴らすよう設定します。

GPS 精度: GPS 位置精度がユーザー定義の値の範囲外になったときにアラームを鳴らすよう設定します。

ソナーアラーム

設定 > **アラーム** > **ソナー**の順に選択します。

浅水域: 水深が指定した深さより浅い場合に鳴ります。

深水: 水深が指定した深さより深い場合が鳴ります。

水温: 水温が± 1.1°C (± 2°F) 以上変動した場合に鳴ります。 デバイスの電源をオフにすると、アラームの設定が保存されます。

注： このアラームを使用するには、デバイスを温度対応変換器に接続する必要があります。

フィッシュ: デバイスによって、浮遊ターゲットが検出された場合にアラームが鳴るように設定します。

- : あらゆる大きさの魚が検出された場合にアラームが鳴るように設定します。
- : 中型または大型の魚が検出された場合にのみアラームが鳴るように設定します。
- : 大型の魚が検出された場合にのみアラームが鳴るように設定します。

単位設定

設定 > **単位**の順に選択します。

システムユニット: デバイスの単位形式を設定します。

北基準分散: 現在の場所の磁気偏角、つまり磁北と真北のなす角度を設定します。

北方位: 方向情報の計算に使用する方向の基準を設定します。 真方位を選択すると、地理的な北が北の基準として設定されます。 グリッドを選択すると、グリッド北が北の基準 (000°) として設定されます。 磁北を選択すると、磁北が北の基準として設定されます。

位置フォーマット: 指定された場所の測定値を表示する際の位置フォーマットを設定します。 別の位置フォーマットを指定する地図や海図を使用していない限り、この設定は変更しないでください。

地図データム: 地図の構築に使用する座標系を設定します。 別の地図の基準面を指定する地図や海図を使用していない限り、この設定は変更しないでください。

時刻の形式: 時間表示を 12 時間、24 時間、または UTC に設定します。

タイムゾーン: タイムゾーンを設定します。

夏時間: 夏時間をオフまたはオンに設定します。

ナビゲーション設定

注： 一部の設定およびオプションには、追加のハードウェアが必要です。

設定 > **ナビゲーション**の順に選択します。

ルートラベル: 地図上でルートの方向転換と共に表示されるラベルのタイプを設定します。

旋廻遷移有効: 方向転換トランジションを時間または距離に基づいて計算するように設定します。

旋廻遷移時間: 時間設定で旋廻遷移有効を選択したときに、次の区間としてトランジションする方向転換までの分数を設定します。

旋廻遷移距離: 距離設定で旋廻遷移有効を選択したときに、次の区間としてトランジションする方向転換までの距離を設定します。

ルートスタート: ルートナビゲーションの始点を選択します。 ボートを選択して、現在の船舶の位置からナビゲーションを開始するか、ポイントを選択して、ルートの最初のウェイポイントから開始します。

工場出荷時設定の復元

注： これにより、生成されたすべての Garmin Quickdraw 等深線を含む、入力した設定情報がすべて削除されます。

設定 > **システム** > **システム情報** > **リセット** > **設定のリセット** > **はい**の順に選択します。

ユーザーデータの共有と管理を行う

⚠ 警告

この機能を使用すると、サードパーティによって生成された可能性のある他のデバイスからのデータをインポートできます。 Garmin は、第三者によって作成されたデータの正確性、完全性、または適時性についていかなる表明も行いません。 このようなデータについては、お客様ご自身の責任で信頼、ご利用ください。

互換性のあるデバイス間ではユーザーデータを共有できます。 ユーザーデータには、ウェイポイント、保存済みのトラック、ルート、および境界が含まれます。

- 電源ケーブルの青色と茶色のワイヤを使用するか、ユーザーデータ共有ケーブルを使用して、2 台の互換性のあるデバイスが接続されている場合、データを共有できます (Garmin デバイスに接続してユーザーデータを共有する, 31 ページ)。

Garmin デバイスに接続してユーザーデータを共有する

STRIKER Vivid デバイスは、互換性のある Garmin デバイスに接続して、ユーザーデータ (ウェイポイントなど) を共有できます。 これらのデバイスが互いに近くに取り付けられている場合は、青色と茶色のワイヤを接続できます。 これらのデバイスが離れて取り付けられていて、ワイヤが届かない場合は、ユーザーデータ共有ケーブル (010-12234-06) を使用して、デバイスを接続できます。

1 両方のデバイスが同じアースに接続されていることを確認してください。

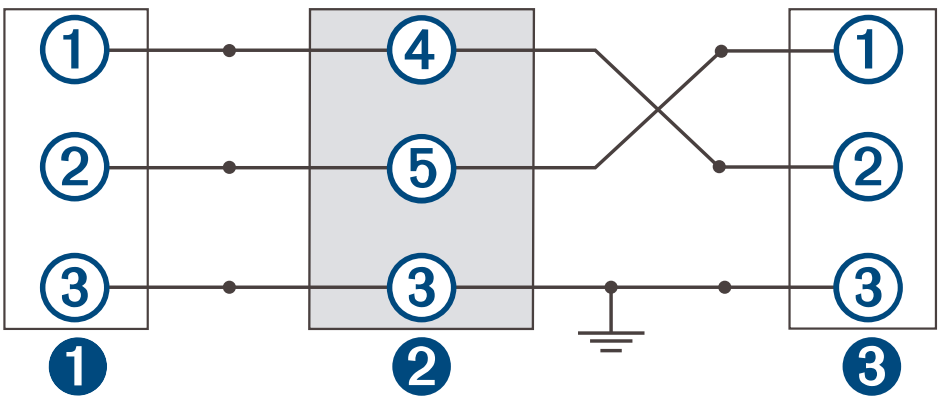
2 次の手順を実行します。

- デバイスが互いに近くに取り付けられている場合は、1 台目のデバイスの青色ワイヤを 2 台目のデバイスの茶色ワイヤに接続し、1 台目のデバイスの茶色ワイヤを 2 台目のデバイスの青色ワイヤに接続します。
- これらのデバイスが互いに近くに取り付けられていない場合は、ユーザーデータ共有ケーブル (010-12234-06) を入手し、ケーブル (ユーザーデータ共有ケーブルの配線図, 31 ページ)に付属している取扱説明書に従ってデバイスを接続します。

3 両方のデバイスで、**ユーザーデータ** > **データの管理** > **ユーザーデータ共有**の順に選択します。

接続されたデバイス間でユーザーデータが共有されます。 ユーザーデータクリアーを選択すると、接続された両方のデバイスからデータが削除されます。

ユーザーデータ共有ケーブルの配線図



①	1 台目のデバイス
②	ユーザーデータケーブル
③	2 台目のデバイス

アイテム	ケーブルの機能	ケーブルの色
①	データ	青
②	データ	茶
③	アース	黒
④	データ	緑
⑤	データ	白

保存されたデータの消去

保存されたユーザーデータをデバイスのメモリから削除できます。 ユーザーデータには、ウェイポイント、ルート、およびトラックが含まれます。

1 **ユーザーデータ** > **データの管理** > **ユーザーデータクリアー**の順に選択します。

2 オプションを選択します。

注記

すべてを選択した場合、保存したすべてのデータ（Garmin Quickdraw 等高線データを除く）が削除されます。

別のデバイスに接続していて、ユーザーデータ共有が有効になっている場合、接続されているすべてのデバイスからデータが削除されます。

付録

シリアル番号を使用したデバイスの登録

デバイスに Wi-Fi テクノロジーが搭載されていない場合は、デバイスのシリアル番号を使用して登録できます。デバイスに Wi-Fi テクノロジーが搭載されている場合は、ActiveCaptain アプリを使用してデバイスを登録する必要があります (ActiveCaptain アプリの操作手順, 5 ページ)。

購入時のレシートの原本またはコピーは安全な場所に保管しておいてください。

1 製品パッケージまたはデバイスでシリアル番号を確認します。

2 garmin.com/account/register にアクセスします。

3 Garmin アカウントにサインインします。

4 シリアル番号を入力します。

仕様

温度範囲	-15° ~ 55°C（5° ~ 131°F）
防水等級	IEC 60529 IPX7[1]
入力電圧	DC 12 ~ 20 V
定格電流	1.5 A
ヒューズ	3 A、250 V 速断型
無線周波数およびプロトコル [2]	Wi-Fi、2.4 GHz @ 22 dBm 最大

[1] このデバイスは水深 1 m、30 分までの偶発的な水没に耐える防水性能を備えています。詳細については、www.garmin.com/waterrating を参照してください。
[2] すべてのモデルに該当するわけではありません。

トラブルシューティング

デバイスの電源がオンにならない、または繰り返しオフになる

デバイスの電源が不規則にオフになったり、オンにならない場合、デバイスへの電力の供給に問題がある可能性があります。 次の項目を確認して、電源に関する問題の原因をトラブルシューティングしてください。

- 電源で電力が生成されていることを確認します。

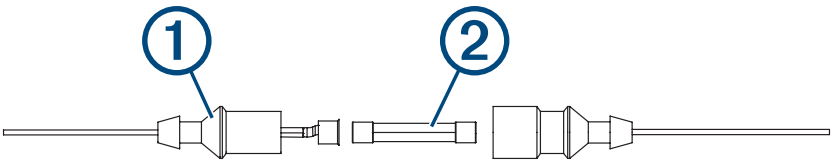
  この確認方法は複数あります。 例えば、その電源から電力を供給されている他のデバイスが機能しているかどうかを確認できます。
- 電源ケーブルのヒューズを点検します。

  ヒューズは、電源ケーブルの赤いワイヤの一部であるホルダー内にあります。 適切なサイズのヒューズが取り付けられていることを確認します。 必要とされる正確なヒューズサイズについては、ケーブルのラベルまたはインストールガイドを参照してください。 ヒューズを点検して、ヒューズ内の接続が維持されていることを確認します。 マルチメーターを使用してヒューズをテストできます。 ヒューズが正常な場合、マルチメーターの測定値は 0 オームになります。
- DC12 V 以上の電圧がデバイスに供給されていることを確認します。

  電圧を確認するには、電源ケーブルのメスの電源ソケットおよびアースソケットで DC 電圧を測定します。 電圧が DC12 V 未満の場合、デバイスはオンになりません。
- 十分な電力がデバイスに供給されているにもかかわらず、電源がオンにならない場合は、Garmin 製品サポートにお問い合わせください。

電源ケーブルのヒューズを交換する

1 ヒューズハウジングを開けます①。



2 ヒューズをひねり、引っ張って取り外します②。
3 新しい 3 A 速断ヒューズを挿入します。
4 ヒューズハウジングを閉めます。

デバイスで GPS 信号を受信できない

デバイスで衛星信号を受信できない場合、いくつかの原因が考えられます。前回デバイスで衛星信号を取得してから長距離移動した場合や、数週間または数か月以上デバイスの電源がオフになっていた場合、衛星信号を正しく受信できないことがあります。

- デバイスで最新のソフトウェアが使用されていることを確認してください。確認できない場合、デバイスのソフトウェアを更新してください (ActiveCaptain アプリでのソフトウェアの更新, 6 ページ)。
- アンテナが GPS 信号を受信できるように、上空が開けた場所にデバイスを設置してください。室内に設置する場合は、GPS 信号を受信できるように窓の近くに配置する必要があります。

ソーナーが動作しない

- デバイスの背面に変換器ケーブルをいっぱいまで押し込みます。

  ケーブルが接続されていると思われる場合でも、完全に固定するようにしっかりと押し込む必要があります。
- ⏻を押し、ソーナーが有効になっていることを確認します。
- 正しい変換器のタイプを選択します (変換器のタイプを選択する, 11 ページ)。

デバイスで正しい位置のウェイポイントが作成されない

デバイス間でデータを転送および共有するために、ウェイポイントの位置を手動で入力できます。座標を使用してウェイポイントを手動で入力した場合に、そのポイントの位置が適切に表示されないときは、デバイスの地図の基準面および位置フォーマットが、ウェイポイントを登録するために最初に使用されていた地図の基準面および位置フォーマットと一致していない可能性があります。

位置フォーマットは、GPS レシーバーの位置を画面上に表示する方法です。これは通常は緯度 / 経度として度および分で表示され、オプションとして度、分および秒、度のみ、または複数のグリッドフォーマットのいずれかを使用できます。

地図の基準面は、地表の一部を表す数学モデルです。紙の地図上の緯線と経線は、特定の地図の基準面を基準にしています。

1 元のウェイポイントが作成されたときに使用された地図の基準面と位置フォーマットを確認します。

元のウェイポイントが地図から除去されている場合は、通常、地図の凡例に、その地図の作成に使用された地図の基準面と位置フォーマットが示されています。多くの場合、凡例は地図の注記の近くに記載されています。

2 **設定** > **単位**の順に選択します。

3 正しい地図の基準面と位置フォーマットの設定を選択します。

4 ウェイポイントを再度作成します。

デバイスに正しい時刻が表示されない

時刻は、GPS 位置とタイムゾーン設定によって設定されます。

1 **設定** > **単位** > **タイムゾーン**の順に選択します。

2 デバイスに GPS 位置が表示されることを確認します。

索引

A
ActiveCaptain **5**
quickdraw **18**
ソフトウェアを更新する **6**
スマート通知 **6**
安全高度 **30**
安全深度 **30**
アラート **29**
コース外 **29**
ナビゲーション **29**
ソナー **29**
走錨 **29**
到着 **29**

B
バックライト **4**
ビープ音 **4**

C
チャート **17, 18**
quickdraw **17, 18**
地図 **17, 18**. 参照項目 チャート; 地図
表示 **20**
quickdraw **17, 18**

D
デバイス
キー **1**
登録 **32**
デバイスの登録 **32**
データ
管理 **30**
消去 **32**
データフィールド **17, 19**
データの共有 **30, 31**
電圧 **29**
ディスプレイ設定 **26**

E
衛星信号, 捕捉 **2**

G
画面, 輝度 **4**
Garmin ClearVü **7**
言語 **26**
Go To **20, 21**
GPS 精度 **29**
魚群探知機. 参照項目 ソナー

H
振動子のタイプ **27**
メイン画面, カスタマイズ **3, 4, 10**
表示モード **4**

I
イベントログ **27**
位置をマーク **21**

K
キー **1**
電源 **1**
キールオフセット **27, 28**
コース **20**
コース外アラート **29**
工場出荷時の設定 **27, 30**
更新, ソフトウェア **6**
組み合わせ **3, 4**
カスタマイズ **4**
距離を測定する **22**

M
水, 温度オフセット **29**
目的地, 選択 **20**

N
ナビゲーションインセット **17**
ナビゲーション **20, 21**
ナビゲーションアラート **29**

O
オーバーレイの数 **17, 19**

P
パン **2**

Q
quickdraw **18**
削除 **18**
設定 **19**

R
落水 **21**
Route To **20**
ルート **22**
並行してナビゲーション **24**
編集 **23**
共有 **31**
ナビゲーション **21–23**
リストを表示 **23**
削除 **24**
作成 **21, 22**
作成中 **23**

S
削除
quickdraw **18**
ユーザーデータ **32**
製品登録 **32**
設定 **4, 19, 26, 27, 30**
システム情報 **26**
深度色分け **20**
振動子 **6, 11**
SideVü **9**
ソフトウェア, 更新 **6**
測定単位 **30**
ソナー **6, 11**
アラート **29**
ボトムロック **13**
A スコープ **15**
浮遊ターゲット **15**
表示 **7, 11, 12, 15**
Garmin ClearVü **7**
フラッシャー **10**
表面ノイズ **16**
感度 **13**
干渉 **16**
カラースキーム **15**
SideVü **9**
深度線 **14**
深度スケール **14**
周波数 **11, 12**
ウェイポイント **12**
ズーム **11, 13**
ソーナー **10**
表示 **10**
感度 **13**
周波数 **10**
SOS **21**
走錨アラート **29**
スマート通知 **6**

T
時計 **29**
アラーム **29**
トラブルシューティング **33, 34**
トラック **24**
アクティブ **26**
編集 **25**
保存する **25**
表示 **24**
記録 **26**
ナビゲーション **25, 26**
リスト **25**
ルートとして保存 **25**
削除 **24, 25**
消去 **24**
トリッププランナー. 参照項目 ルート
到着アラート **29**
通知 **6**

U
ウェイポイント **19, 21, 34**
編集 **22**
共有 **31**
落水 **21**
リストを表示 **22**
削除 **22**
作成 **21**
ソナー **12**

W
ワイヤレスデバイス, ワイヤレスデバイスに
接続する **5**
Wi-Fi **5**

Y
ユーザーデータ, 削除 **32**

Z
GPS **33**
設定 **26**
信号 **2**
ズーム **2**
ソナー **13**

CE

2022 年 4 月月

GUID-C3C9935A-44AD-4A64-8690-B6I76625C6BC v3